

《履修上の留意事項》公認心理師資格取得を希望する者は、2年次以降、学習・言語心理学 も受講すること。

《担当者名》上河邊 力

【概要】

学習心理学は、行動や認知の学習プロセスを科学的に理解することを目的とした科目である。本授業では、古典的条件付け、オペラント条件付け、洞察学習といった公認心理師試験出題基準に記載された理論と応用を取り扱う。本科目は、臨床心理学における介入技法や行動変容の基礎となる理論を提供するものであり、クライアントの行動パターンの理解や心理療法における効果的なアプローチの開発に寄与する。さらに、公認心理師養成課程の一環として、心理支援を行う際の科学的根拠に基づいた方法論を学ぶ重要な科目である。この科目の学習を通じて、臨床現場での課題解決能力の向上が期待される。

【学修目標】

学習心理学の基礎理論と応用を理解するために、主要な学説や研究結果を体系的に理解する。  
 行動変容や学習支援の実践に役立つ理論的知識を身につける。  
 関連する実験や応用例を学ぶことで、古典的条件付けやオペラント条件付けの基本原則を説明できるようになる。  
 学習理論を基にした行動分析の手法を適用できるようになるために、ケーススタディに積極的に取り組む。  
 学習の評価方法について学び、グループ活動を通じて実践する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	学習心理学への導入	シラバスを概観するとともに、ブループリント出題基準との関連を理解する。 学習の定義や学習心理学の歴史的背景を理解する。	上河邊 力
2	誘発行動、馴化、鋭敏化	反射の概念や様式的行動パターンについて理解する。 馴化と鋭敏化の適応的意味について理解する。	上河邊 力
3	古典的条件づけの基礎	古典的条件づけに関する代表的実験を通して、恐怖条件づけ・嫌悪条件づけについて理解する。	上河邊 力
4	古典的条件づけのメカニズム	条件反応の性質の決定因について理解する。 条件刺激と無条件刺激の連合について理解する。	上河邊 力
5	オペラント条件づけの基礎	オペラント条件づけに関する初期から現在に至るまでの研究を理解する。 強化と弱化的について理解する。	上河邊 力
6	強化スケジュール	間欠強化における単純なスケジュールについて理解する。 複雑な選択と自己制御について理解する。	上河邊 力
7	オペラント条件づけのメカニズム	オペラント条件づけの連合構造について理解する。	上河邊 力
8	行動の刺激性制御	弁別と般化、転移について理解する。	上河邊 力
9	行動の消去	消去手続きについて理解する。 消去からの回復や消去の増強について理解する。	上河邊 力
10	嫌悪性刺激	回避学習について理解する。 罰の理論と研究について理解する。	上河邊 力
11	観察学習	洞察学習について理解する。 観察学習について理解する。 模倣と代理強化について理解する。 モデリングについて理解する。	上河邊 力
12	記憶のメカニズム	記憶の基礎概念を理解する。 記憶のメカニズムを理解する。 忘却と記憶の失敗の原因を理解する。	上河邊 力
13	学習心理学の応用	応用行動分析の基礎を理解する。	上河邊 力
14	学習心理学の応用	応用行動分析の実践をワークや事例を通して学ぶ。	上河邊 力
15	まとめ	授業全体を振り返るとともに、学習心理学のその他の理論や応用について理解を深める。	上河邊 力

### 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

### 【アクティブ・ラーニング】

導入している

### 【評価方法】

- ・定期試験100%

(ただし、常識的な態度で受講し、期末試験受験資格を満たす場合に限る)

### 【教科書】

C. メイザー（著），村上 宣寛（監訳）『メイザーの学習と行動 第3版』二瓶社  
オリジナルの配布資料をGoogle Classroomで配布する

### 【参考書】

澤 幸祐『私たちは学習している 行動と環境の統一的理解に向けて』ちとせプレス

中島 定彦『学習と言語の心理学』昭和堂

ドムヤン, M. (著), 漆原宏次・坂野雄二 (監訳)『学習と行動の原理 [原著第7版]』北大路書房

### 【備考】

各学生がすべての講義に出席することを前提に講義を進める。講義に欠席した場合、各自の責任において、その講義で配布された資料の有無を確認し、次の講義までに適切な対応を取ること。また、欠席回数については各自で責任をもって管理すること(欠席回数についての問い合わせには原則応じない)。

- ・ Google Classroomを通じて学習課題を提示する。
- ・ Google Classroomを利用したオンデマンド型授業を行う。
- ・ Google forms等を通じて学生からの質問、意見を収集し、次回の授業で紹介する。
- ・ Mentimeterを通じてアンケートやワークを行う。

この講義は心理科学部臨床心理学科の研究協力者プール・クレジットシステムの対象である(詳細については初回講義時にて説明)。

### 【学修の準備】

各回のシラバスを参考に、配布資料と教科書の関連ページに事前に目を通し予習する(2時間)。

次回講義までに、前回の講義で用いた資料について、参考書などで内容を補完したうえで重要項目を中心に暗記する(2時間)。

### 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。

DP3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

### 【実務経験】

公認心理師、臨床心理士

### 【実務経験を活かした教育内容】

医療機関(精神科、小児科)や教育機関(小・中学校)における公認心理師としての実務経験を通して得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

### 【その他】

この科目は主要授業科目に設定している